

## <レポート1>情報通信という存在の大きさを感ずることができた

### 1 はじめに

私はインターンシップに参加するまで東海総合通信局が一体どのような業務を行っているか詳しくは知らず、漠然と電波の管理やICTの推進を行っていると考えていました。実際にインターンシップにて話を伺うと、もちろんICTの活用に関する施策や電波の管理を業務として行っているのですが、なぜそれが必要なのか、どのようにそれを実現していくのかといった部分まで話を伺い、東海総合通信局が私たちの生活を見えないところで支えていることに気が付くことができたように感じます。

私がインターンシップに参加した理由は、業務内容を知るためではありますが、ほかに実際に総合通信局で働いたときにいかに働きやすいと感じられる職場なのか、働いている人の雰囲気はどうか知りたいと考えたからです。実際に参加してみてぜひこのような人とともに働きたいと感じるような魅力的な人ばかりであったと感じています。私は全5日程のうち、2つの日程に参加をしました。参加したプログラムの中で印象に残っているプログラムについて紹介をしていきます。

### 2 座談会

各日程最初の時間に座談会が設定されていました。初日も最初のプログラムが座談会ということで、大変緊張をしていたのですが、担当の方々が明るく話しかけてくださり、緊張が和らぎ自然体で話を伺うことができたと感じています。担当の方の中には民間からの転職者の方や今年度に入局されたばかりの方もおり、働いてきたうえで感じた民間と公務員の違いや公務員試験についてなど、人事担当者の方とはまた違った生の声を聴くことができたと感じました。特に、私は公務員と民間のどちらにしようか迷っている状態であったため、転職者の方からお話を伺えることは貴重な機会となりました。実際に伺ったことは業務内容や残業、休み、出張、研修、やりがいについてなどです。どの質問に対しても丁寧に回答をしていただきました。

### 3 監視調査課

監視調査課は違法電波の取り締まりを行う部署です。違法電波が一体どういうものなのかということから丁寧に説明を受けました。私は説明を受けるまで、違法電波というものは悪質な人が意図的に重要な電波を妨害しようとして発せられると思っていました。しかし、実際には故意に電波を妨害しようとしたわけではなく、正しい使用用途で使っていた機器が偶然、他の電波を妨害していたというような、通常的生活範囲内で起こりえることであるということを初めて知りました。その他、説明においては違法電波の実例や取り締まりの方法、違法電波を防ぐ対策について話を聞きました。その説明の中でも一部、特に私が印象に残ったことについて以下で紹介をします。

### 3.1 DEURAS(デューラス)

違法電波を発する不法無線局の位置を特定するためのシステムである DEURAS を実際に見学しました。DEURAS は全国各地に電波をキャッチするアンテナが設置されており、リアルタイムで飛んでいる電波の方向を特定することができます。模擬的に無線局の位置を特定する様子を見学しました。表示されている地図上に観測所を起点として電波の方向に一本の線が引かれ、さらに複数の観測所からの情報を組み合わせることで位置を特定していました。イメージとして機械でピンポイントに発射源を特定できると想像していたので、各観測所の情報を頼りに見つけていかなければならないことに驚きました。

### 3.2 電波発射源特定体験

DEURAS で不法無線局のおおよその位置を特定したのちに、現地にて行なわれる電波発射源の特定の体験をしました。職員の方があらかじめ部屋に仕込んだ電波を出す機器を見つけないというもので、方向と電波の強さのみで機器を見つけるため、想像していたよりも難しいものでした。実務では部屋の中でやるわけではないからもう少し簡単であると話していましたが、それでも最後は人の手で見つけるということで、大変な作業であると感じました。

## 4 ローカル 5G についての説明・グループワーク

ローカル 5G については東海総合通信局内ではなく、ローカル 5G を体験することができる「なごのキャンパス」にて、総合通信局の担当者の方とスターキャット・ケーブルネットワーク株式会社の担当者の方から説明を受けました。ローカル 5G は Wi-Fi に近いものですが、Wi-Fi よりも広範囲、高速、低遅延、多数同時接続可能といった特徴があります。一方で、コストが数千万円かかり、さらに免許も必要となるといったデメリットもあります。実際にローカル 5G を用いてテレビカメラからの映像を中継する様子を見ましたが、遠くへ離れても映像がつながっていて、乱れない映像を見ることができました。

現在行われているローカル 5G に関する開発実証についても資料を頂戴し、様々な分野にてローカル 5G を活用した取り組みが行われていることを知り、ローカル 5G への期待が高まったように思います。

また、グループワークにおいてはローカル 5G の特徴を生かして解決できる課題について考えました。まず、今現在ある課題を考えることが難しく、さらに特徴を生かすといった点に苦慮しました。一方で、実際にそのような課題を解決できた状況を想像すると便利に感じるばかりで、情報通信の発展でここまで未来を大きく想像できるのかと、情報通信という存在の大きさについて感じることができました。

## 5 まとめ

東海総合通信局の業務について、インターンシップに参加前はほとんど知らないような状態だったのですが、2日間の実習を通して、その一部ではありますが、理解することが

できたと感じています。さらに、その業務の裏にある、なぜ通信を行政が管理する必要があるのかという点まで学ぶことができ、業務のやりがいや必要性についても理解することができました。

実習中はたくさんの局員の方と交流することができ、局内で働いている方の雰囲気についてもつかむことができたと感じています。加えて、他のインターンシップでは業務の説明のみということもあったため、会議室を出て、機器等を見学・体験できることは実際に業務へ携わる姿のイメージへつながりました。今回のインターンシップで学んだ点を今後の自身のキャリアを考える中で生かしていきたいです。

以上